

第3回地域事業支援会議

作業療法士は地域共生社会を理念で終わらせない

今年度開催3回目かつ、2023年度を締めくくるとともに第3回地域事業支援会議は、2024年3月3日（日）午前中にオンラインで開催されました。全国から選任者が73名、聴講者56名、班員等が25名の計154名の方が参加されました。当士会からは、高坂（群馬医療福祉大学）、山口（群馬リハビリテーション病院）が参加しました。まず初めに山本伸一会長よりご挨拶があり、「地域リハビリテーションの一端を担う今事業は、重要な位置づけとして推し進めていきます。本日の会議を得て、各地域の各都道府県の情報共有、皆さまのご理解も頂きながら進めていきたいと考えております」とのお言葉があり、会員の現場や地域の臨床が活き活きと輝くことにエールを頂きました。続いて、佐藤理事から「総合事業の在り方」について、自立支援・介護予防が必要となる背景や理念の再確認を頂き、総合事業の充実に向けた検討会の中間報告とこれから作業療法士が取り組んでいかないといけないビジョンについてお話し頂きました。

そして今回は、市町村担当配置事業における全国の取り組みの中から3士会に事例報告をしていただいていたから、各グループに分かれて積極的に意見交換が行なわれました。

「総合事業の在り方」



日本作業療法士協会
理事 佐藤孝臣

班員からの事業報告、3士会からの取り組み事例報告

地域共生社会5か年戦略・重点活動項目の中から、今回は「地域づくりに資する作業療法参画モデル事業」「市町村担当者配置事業」「地域事業参画推進のための士会マネジメント事業」について、そして「OT参画実態調査」についての報告がありました。実施したアンケートの結果については、改めて各士会にもご報告が予定されているとのことでした。また、三浦班長から市町村担当者配置の目的と方法について再確認のため共有していただくとともに、事業推進のためのツールとして「配置のカタログ」活用についての説明がありました。

市町村担当配置状況や他機関との連動の方法などの取り組みについて、全国の取り組みの中から今回は3士会(兵庫県士会、茨城県士会、山形県士会)から報告がありました。具体的な内容としては、各士会から地域特性の紹介、現在の地域支援参画状況、OTの参画・派遣の体制に3団体や支援センター等がどのように関与しているか、市町村担当者をどのように配置したか、市町村に配置する上での課題と解決策について報告がありました。

グループワークを開催 テーマ：市町村配置の振り返りと意見交換

会議の後半は、市町村配置の振り返りと意見交換をテーマにグループワークを行いました。内容の一部を紹介させていただきます。

1. 市町村担当者配置についての工夫点や課題

日本中の隅々まで作業療法を届けるための市町村配置について、各士会で上手くいっている点、工夫している点、現状の課題等を共有しました。他団体と連携を取れている士会は、お互いの役割分担が図れ円滑に担当者配置が進み、担当者配置マップ作成など他団体への広報も行っていました。一方で配置が進まない士会では、士会単独で事業を進めていることから、会員や他団体への周知の難しさや、担当者の任命やフォローアップ体制の不備等が課題として挙げられました。今回報告のあった3士会の報告の中で群馬県でも実践できる内容を取り入れ、担当者配置事業を進めていきたいと思えます。

2. 市町村事業における各士会での体制

市町村事業を実施している中で、各士会での体制について意見交換を行いました。新たな取り組みとして通所Cのライブ中継を3士会で行ったところ、連携の取り方や事業の進め方等参考になると大変好評であったとの報告がありました。その他には行政や地域包括支援センターや他協議会等と連携して実施しているという報告もありました。

当士会では、現在2次医療圏域まで担当者配置が進んでいる状況です。今後、各市町村との連携状況について調査を進め、地域局、地域包括ケア推進グループを中心に適材適所に担当者配置を進めていく予定です。

編集後記

他士会の現状を知ることができ、また課題を共有することが出来ました。群馬県士会としては今回の意見を参考に、群馬県の課題に合わせた独自のシステムを作り上げていきたいと思えます。 群馬県士会 担当：山口（群リハ病院）

注目

共に地域を盛り上げてくれる仲間大募集！！

地域支援に興味がある方、地域で活動されている方はもちろん、何も知らないが一緒に学んでみたい方、他職種との交流関係を広げてみたい方などグループメンバーとして大歓迎です。研修会や地域支援事業に関する情報を知りたい方は、メーリングリストの登録のみでもOK！それぞれ右記QRコードよりご登録下さい。

